

花紋アリ、冬月夏ハ粉少シ葛粉ヲ製スル如ク、水飛シ粉ヲ採ルヲ天花粉ト云フ、中略

王瓜カラスウリ タマヅサ キツ子ノマクラ 丹波 ゴウリ 筑後 タマヅサゴウリ 筑前

ムスビゼウ 阿州 グドウジ 土州 チヤウチゴフ 豫州 中略

路旁林側籬邊ニ甚多シ、春舊根ヨリ苗ヲ生ズ、蔓長シテ線稜アリ、葉互生ス、共ニ深綠色ニシテ黒色ヲ帶ブ、葉ノ形圓ニシテ尖リアリ、或ハ三尖或ハ五尖齊シカラズ、皆鋸齒アリ、體厚ク毛刺アリ、一葉ゴトニ鬚アリテ瓜ノ鬚ノ如シ、五月葉間ニ白花ヲ開ク、形栝樓花ニ異ナラズ、其瓜大サ倭鶏卵ノ如シ、栝樓ヨリ小ニシテ長ク、秋冬熟シテ朱紅色ナリ、瓜萼實ノ形大ニシテ、熟シテ黄色ナルニ異ナリ、

〔藥經太素下〕栝樓根 寒味苦 鐵忌 天瓜粉トモ云

土氣ヲ能洗テ、白水ニ付テ、白ニ入テ擣碎テ、水ニスリ立テコシテイサセテ用除熱生津并治乳癰疽痔漏補勞潤肺實尤良、

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥

伊勢國五十種中略 栝樓十九斤

〔廣益國產考四〕王瓜ひまごうり、たまづさ、○中略

關東などにて、此實をとり、つきつぶして土鍋に入、酒を加へ煮て貯へおき、婦人などの胼にぬれば忽ち治し、痛を忘るゝといふ、又此根より取たる粉に、龍腦を少し加へ匂ひをつけ、菊童と名づけ鬻ぐ家あり、夏は婦人もとめて白粉の代りに用ふるに、面皰ひきびそばかすを治し、その外顔のできものを治するといへり、もつとも若き婦人は白粉下にぬりて、其上におしろいをぬるに、きめをこまかにし艶を出すといへり、又老婦は此粉ばかりをぬりてふきとれば、顔のきめこまかになり、白粉を付たるやうにして、おしろいのごとく白き粉うくことなしとて専ら用ふ、是は江戸に